

- 1. 人権が尊重され、誰(だれ)もが安心して暮らせる福祉のまちづくり
- 2. 良好な環境が整った、快適で安全・安心なまちづくり
- 3. 活力ある産業に満ちた、にぎわいあふれるまちづくり
- 4. 明日の彦根市を担う人を育(はくく)むまちづくり
- 5. 人とひととの交流をひろげ、市民文化を創造するまちづくり

江戸時代の玉手箱 博物館の魅力とは 特集



◀ 館蔵品が並ぶ収蔵庫。人の出入りは厳しく管理されています。資料の保存のため、温度・湿度も常に一定に保たれています。

全国から注目される館蔵品

彦根城博物館には、彦根藩主だった井伊家に伝わった美術品(武器・能や茶の道具・調度品・絵画)や古文書(昔の手紙など)など、美術工芸品約5千件、古文書は約3万7千件の資料があります。国宝1件と重要文化財3件を含み、江戸時代のものでは初めて、彦根藩の古文書が、一括で重要文化財に指定されました。

このため、毎年、全国の博物館から出品の要望があり、館蔵品の一部を出品して好評を博しています。東京のサントリ美術館や高松市歴史資料館などでは、彦根藩井伊家伝来品の紹介をテーマとした展覧会が開催されました。

このように、豊富な館蔵品を展示する博物館として、全国的に知られるようになり、来館者も、現在は彦

▶ 多くの収蔵品を持つ彦根城博物館。展示品は、月に一度入れ替えられています



彦根城博物館で遊ぼう!!



「彦根城博物館?行ったことがない。何やってるの?」「博物館って、難しそう」。開館から17年たった彦根城博物館。豊富な館蔵品により江戸時代の大名文化と歴史を味わえる博物館として全国的な評価を得ています。

でも、市民にとっては意外に行く機会が少ない場所かもしれません。今回の特集は、そんな博物館を市民が楽しむための博物館ガイドです。

根城と周辺への観光客が大半を占めています。このため博物館では、市民の皆さんにも、博物館により親しみを感じ、来館いただけるよう、魅力ある企画を進めています。

彦根城博物館の底力 常設展示の魅力

収蔵品をいかに分かりやすくしかもセンスよく展示をするか。常設展示は、各地から借用した資料を展示する企画展に比べて目新しさには欠けませんが、館蔵品による展示である分、博物館本来の魅力が凝縮されることです。

博物館では、月に1回、ほぼすべての作品を入れ替えています。常設展示では特に、あまり関心がない人にも受け入れられるよう、分かりやすい展示を心がけています。

具体的には、各展示室に丁寧な解説シートを設置したり、「今月の一品」と題し、名品を分かりやすく解説したり、ミニテーマを設けて総合的に説明したりしています。

常設展示はまた、四季を感じることもできる空間でもあります。正月は武家の具足飾り、秋には菊の絵の展示など、日本人が古くから大事にしてきた季節感が感じられるような展示を行っています。

夏休みは博物館

博物館では、子どもものときから博物館に親しんでもらうため、子どもを対象とした企画を1年を通じて計画しています。なかでも夏休みはメニュー満載です。

これから夏休みを迎える小学生・中学生・高校生の皆さん、難しい理屈はさておき、本物をじかに見て、博物館の楽しさを体感じ取ってください。



▶ 子ども狂言教室の練習風景

子ども狂言教室

【小学5・6年生対象】プロの狂言師から狂言を集中的に学び、博物館の由緒ある能舞台で発表披露会を開きます。見る側ではなく演ずる立場になるという貴重な体験は、長く記憶に残ることでしょう。期間は夏休み中の7日間です。詳しくは7ページをご覧ください。

はくぶつかんへ行こう スペシャル

【小学生対象】日本文化の一つでもある紐の結び方を学びます。また毎年好評のお茶を自分で点てる催しも行います。詳しくは7ページをご覧ください。

高校生のための日本史・美術入門

【高校生対象】日本の歴史・美術の魅力と奥の深さに目からうろこが落ちる入門講座。学校の授業の見方も変わることに間違いなしです。

日時・テーマ
8月7日(土)「戦国武将と関ヶ原合戦」
8月8日(日)「日本の色」
※いずれも午後2時~同3時30分
申込方法 当日博物館にて受付

はくぶつかんへ行こう
【小学生対象】
今年のテーマは「すくろくで遊ぼう」。昔の絵すくろく(下の写真)を使って楽しく遊び、4~6年生は、自分だけのオリジナルすくろくも作ります。

毎月2回程度、学校別に開催。詳しいことは、学校を通じてお知らせします。



はくぶつかん相談室
【学年不問】
学校で習った歴史や地域の昔のようすについて、疑問に思ったことや

知りたいことをいっしょに調べましよう。夏休みの宿題解決のヒントの場としてもどうぞ。

日時 8月21日(土)、同22日(日)
※いずれも午前9時~午後4時
申込方法 当日博物館にて受付

小学生用ガイドブックをプレゼント

市内の小学生が、彦根城博物館に来館された際、展示の内容がよく分かる小学生用ガイドブック『はくぶつかんへ行こう』をプレゼントします。希望者は受付でお申し出ください。

また現在、井伊直弼のことが分かるガイドブックも作成中です。



特集 彦根城博物館で遊ぼう

ミュージアムショップ(売店)では、国宝・彦根屏風や関ヶ原合戦図屏風のミニチュア、シール、クリアファイルなどのグッズや、過去の展覧会の図録などを販売しています。買物のみの来館の場合、入館料は不要です。



博物館利用のご案内

開館時間 8:30~17:00
休館日 12月25日~31日のみ(展示替のため、一部展示室が休室している場合があります)
観覧料 一般500円、小中学生250円
市内在住の小・中学生と65歳以上の人、身体障害者の人は無料です。
(在学が分かるもの・健康保険証・障害者手帳などの提示が必要です。)
博物館友の会会員は、会員証で入館できます。(年会費2,000円)
問い合わせ先
彦根城博物館 ☎22-6100、
FAX22-6520
ホームページ
<http://longlife.city.hikone.shiga.jp/museum/>

見どころ満載 テーマ展・企画展の魅力

美術工芸品を観るときは、目の付け所が肝心です。作られた時代、題材や文様の意味、どのように作られたか、などを調べていくと、昔の人

てきました。
特別史跡彦根城跡は、失われたものもありますが、400年前の城の景観を今日に伝えています。彦根城博物館が特別なのは、その要に位置し、彦根藩資料という質・量ともに充実した博物館資料を持つからです。
博物館は、「見せる館」から多様な資料にかかわる情報発信の場になりつつあります。彦根城博物館の類まれな歴史的重みと、すぐれた城郭景観に恵まれた立地を生かし、観光の視点も取り入れながら、生涯学習の拠点の場として、博物館活動を行っていきたいと思います。

類まれな歴史的重み

彦根城博物館館長 石丸正運

私はこの4月に彦根城博物館に赴任しました。この博物館は、私の40年近い学芸員生活のなかでも特別なものです。これまで、県立琵琶湖文化館、県立近代美術館、砺波市美術館(富山県)に在籍してきましたが、いずれも博物館のゆかりのないところに新設されたものです。それぞれ博物館創設の理念と目的を定め、それに基づいて博物館活動を行っ

てきました。
特別史跡彦根城跡は、失われたものもありますが、400年前の城の景観を今日に伝えています。彦根城博物館が特別なのは、その要に位置し、彦根藩資料という質・量ともに充実した博物館資料を持つからです。
博物館は、「見せる館」から多様な資料にかかわる情報発信の場になりつつあります。彦根城博物館の類まれな歴史的重みと、すぐれた城郭景観に恵まれた立地を生かし、観光の視点も取り入れながら、生涯学習の拠点の場として、博物館活動を行っていきたいと思います。

の流れをたどることができ、画期的な展示として全国から高い評価を受けています。

博物館への第1歩 ギャラリートーク

「博物館はとっつきにくい。」「展示がよく分からない。」「と思ってしまう人にお勧めしたいのがギャラリートークです。
月に1回変わるテーマ展を、展示会場で学芸員が解説します。企画のねらいや見どころから、展示品1点ずつのいわれまで、丁寧な説明を聞くことができます。色々な質問も飛び交い、和気あいあいとした雰囲気なかで進められます。ギャラリートークは博物館を楽しむ第一歩とも言えます。ぜひ参加してみてください。

歴史に肌で触れる

特色ある立地と外観、収蔵品を生き、展示を観るだけでなく、日本の伝統文化を肌で感じ取ることのできる博物館を目指しています。
例えば、江戸時代の能舞台を生かす、プロの演者による能や狂言の催し。この時期には、普段より多くの能面・能装束の展示も行っています。

また、子どもたちが本格的なお茶を学ぶ機会として、木造棟(絵図面をもとに当時のままに再現しています)の和室を利用した「親子で楽しむお茶会体験」を、彦根茶道協会と連携して開催しています。
市民の皆さんにも、能舞台を謡の会の発表会に、和室をお茶会などに利用いただいで好評です。

紙上 談話室 22

彦根の文化遺産を、次代を担う 若い世代、未来の彦根市民へ

彦根市長 中山一

平成9年5月21日、スウェーデン国王カール16世グスタフ閣下と王妃をお迎えし、彦根城天守をご案内、大幅に予定時刻を超過していましたが、彦根城博物館へはぜひひとと所望され、引き続きご案内したものです。実はグスタフ3世のコレクションを集めた博物館が王宮の一部にあり、国王のご関心もここにあるのかと思つたしだいです。

彦根城博物館は、郷土に養われた文化遺産を現代に生かした特色のあるまち創りを進めるための拠点として、市民の皆さん、各種団体・機関から募金にご賛同をいただき、昭和62年に開館しました。以来17年を経過し、彦根藩庁であつた表御殿を復元した趣のある佇まいは、彦根の育んできた数多くの歴史・文化を紹介するにふさわしい場所として親しんでいただいています。

平成15年度には、来館者数も開館以来約160万人を数え、市民を始め、多くの人々に対し、より良質の教育普及を目標に

様々な活動を行っています。
博物館は、市民の皆さん一人ひとりに日本文化の美や、能楽・茶道などの伝統的精神に触れ親しんでいただくとともに、数多くの彦根藩の古文書が研究されるなかで、様々な新しい事実が分かってきており、その成果を発表しているところでもあります。私が受け継いだ彦根の文化遺産を、次代を担う若い世代、さらに未来の彦根市民に、より充実した形で伝えて行きます。

展示活動については、季節感を盛り込んだ常設展を開催し、月1回程度の展示替えを行っております。さらに、普及活動にも力を入れ、講座、教室、講演会を定期的に行い、歴史、文化への多様な関心にお応えできる場を提供し、「彦根城能」や「狂言を親しもう」など魅力に触れていただいています。今後とも私が彦根に密着した博物館を目指しています。皆さんの温かいご理解とご協力をお願いいたします。

学芸員の仕事はなに？

博物館の館蔵品の保管や展示をおこなうのが学芸員です。彦根城博物館には、現在、美術品担当の学芸員4人、古文書担当の学芸員3人がいます。
学芸員の仕事内容は、館蔵品の保存管理、館蔵品や地域文化財の調査・研究、展覧会の企

画・出品の交渉・展示・広報、博物館講座や古文書教室の講師、小・中学生への博物館教室など多岐にわたります。美術史・日本史研究者としての専門能力だけでなく、企画、展示技術、行政実務、広報、さらには教育など、幅広い能力が求められる職種です。ちなみに、『広報ひこね』の毎月1日号に「ときの玉手箱」を連載しているのも学芸員たちです。

博物館の普及活動に欠かせないのが、「博物館友の会」です。会員のなかでボランティアガイドをしている方に、活動について伺いました。

博物館友の会ボランティア 松岡寿子さん(松原町)

博物館で展示解説ボランティアを始めて12年になります。あるとき、ボランティアの解説を聴き、私もそういうことができるようになりたいと思ったのがきっかけです。現在では、月に数回、展示品の説明などのボランティア活動をしています。



ボランティアになってよかったことは、博物館の展示品について、より深く知ることができることです。また、それが作られた背景などを知ることで、その道具を使っていた人々に思いをはせることができます。

学芸員さんと知り合うことができるのも楽しみの1つです。疑問に思ったことがあれば気軽に質問することもできます。自分が得た知識や作品に対する思いなどを、ボランティア活動のなかで、博物館を訪れてくださった人に少しでも伝えて行けたらと思っています。